

人権について考え、行動しよう

綾部市制施行65周年記念

あやべ人権フェスタ2015

市や丹後・中丹人権啓発活動ネットワーク協議会、部落解放・人権政策確立要求綾部実行委員会は12月4～10日の人権週間に先立ち、11月28日に西町一丁目の「Tビル」で「綾部市制施行65周年記念あやべ人権フェスタ2015」を開催しました。

人権を考える機会に

同フェスタは、人権について考える機会とすることを目的に開催。当日は653人が来場し、映画上映会や京都府人権啓発イメージソングを作詞した作詞家・鮎川めぐみさんによる絵本の読み聞かせと



手話を交えて府人権啓発イメージソングを歌う鮎川さんと参加者

歌のほか、人権擁護委員の活動紹介や人権講演会などが行われました。講演会では、拉致被害者の蓮池薫さん（新潟産業大学経済学部准教授）が「夢と絆」―北での24年間、そして「今」―と題して講演。蓮池さんは「人生で命以外の全てを奪われた。その中でも今も悔しくてたまらないのは、夢や家族との絆を奪われたこと」と自身の体験を通して拉致の悲惨さを語り、拉致問題の早期解決を訴えました。

標語コンクール表彰も

市は、これからの時代を担う子どもたちが人権の意味や大切さを考える機会とすることなどを目的に、平成27年度みんなで創る人権のまち綾部



自身の拉致被害について語る蓮池さん

人権標語コンクールを開催。小学校1617点（低学年782点、高学年835点）、中学校682点の応募の中から計24点を入賞作品に選び、同フェスタで表彰式を行いました。入賞者は次の皆さんです。（敬称略）

小学生低学年の部

【最優秀賞】黒満貫太郎（綾部小1年）

【優秀賞】岸本幸樹（上林小

～最優秀作品～

やらないよじぶんがされたらいやなこと
さりげない ことばひとつが おもいやり
大丈夫？ 君の言葉が 助け船
小学生低学年の部 黒満貫太郎
小学生高学年の部 大島琉維
中学生の部 大槻希実

1年）▽安達小姫（豊里小2年）

中3年）

【佳作】白波瀬晴希（東綾小1年）▽四方新大（同）▽片岡琉稀（西八田小2年）▽山本幸歩（豊里小3年）▽大泉遙汰（吉美小3年）

【優秀賞】高田康大（綾部中3年）▽難波純奈（同）

【佳作】能勢英（綾部中1年）▽瀬上亜衣香（同）▽麴嶋彩夏（同）▽四方瑞月（綾部中3年）▽村上はな（河北中3年）

【佳作】荒賀健太（豊里小4年）▽川端悠斗（同）▽高橋きいろ（同）▽村上優（同）▽森碧依（東綾小6年）

【最優秀賞】大島琉維（中筋小6年）

【優秀賞】能勢友奏（西八田小5年）▽大槻悠斗（中筋小6年）

【佳作】奥澤せつ平（綾部小4年）▽白波瀬愛華（同）▽本田ひなた（物部小5年）▽吉田このか（中筋小6年）▽古和田達基（上林小6年）

中学生の部

【最優秀賞】大槻希実（八田



表彰を受ける入賞者ら

事故や犯罪のない

安全・安心のまちをつくらう

交通事故に気を付けて！

今年も12月11～31日に「年末の交通事故防止府民運動」が府内で実施されます。交通マナーの実践を習慣づけ、事故を防止しましょう。

師走の慌たしさが事故のもと

年間で、最も交通事故が多い12月。年末は帰省やレジャーで運転の機会も増え、慌たしさを長期休暇での気の緩みなどから事故が起きやすくなります。また、冬は忘年会や新年会などでお酒の席に出席することも多くなる季節。飲酒運転は絶対にやめ、「飲

ゆずりあい
心もあったか
京の暮れ

年末の交通事故防止府民運動の重点

- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 自転車の安全な利用の推進
- 夜間の歩行中の交通事故防止（反射材用品等の着用促進）
- 飲酒運転の根絶

安全・安心のまちづくり大会開催

ポスターコンクール表彰式

市安全・安心のまちづくり推進協議会（山崎善也会長・綾部市長）と社会を明るくする運動綾部地区推進委員会（山崎善也委員長・綾部市長）は11月24日、犯罪や交通事故のない、市民が安全で安心して生活できる地域社会の実現を目指すことなどを目的に、第11回安全・安心のまちづくり綾部市民大会を開催しました。

【最優秀賞】尾松紗奈（豊里小4年）

【優秀賞】（綾部交通安全協会長賞）山崎萌瑛（豊里小4年）

【優秀賞】竹原美優（物部小6年）



尾松紗奈さん



自身の経験やユーモアを交えて講演する幸島さん

大会では、子育てアドバイザーの幸島美智子さんが「子どもをいじめや犯罪の被害者・加害者にしないために」家庭・地域で考える」と題して講演しました。警視庁での勤務や子育ての経験から、現在の子どもたちを取り巻くいじめ、インターネットと携帯電話のマナーとリスク、虐待などについて説明。「愛された記憶を持つ子は絶対に非行に走らない」など、親の子どもへの関わり方について述べました。

子どもとの関わり方を講演

大会では、子育てアドバイザーの幸島美智子さんが「子どもをいじめや犯罪の被害者・加害者にしないために」家庭・地域で考える」と題して講演しました。警視庁での勤務や子育ての経験から、現在の子どもたちを取り巻くいじめ、インターネットと携帯電話のマナーとリスク、虐待などについて説明。「愛された記憶を持つ子は絶対に非行に走らない」など、親の子どもへの関わり方について述べました。